

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第 10 章

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するの必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

今夜からいよいよ 10 章に突入です。

時系列的に 10 章を見ると、大患難時代のほぼ中間地点になります。

この 10 章は 9 章とは対照的で、とても素晴らしいことが起こります。

9 章は非常に暗黒で悲惨でしたね。

恐ろしいでたちの悪霊たちが底知れぬ穴から放たれ、さそりのように人を刺し、その痛みが余りにも激しいために、人々は自殺を願いますが死ぬことができません。

と言っても、皆さんと私は関係ありません。

私たちは、その時天国にいますから。

これらの人々は主を拒絶した人たちで、主が彼らの目を覚まさせ、開こうとしているのです。

そして 10 章。

次は明るい。

悪霊が解き放たれ、人々を刺し、苦しめた後に起こることです。

また私は、もうひとりの強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。

(黙示録 10:1)

暗闇の後、光が射し、御使いが天から降りて来ます。

その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火の柱のようであった。(黙示録 10:1)

その手には開かれた小さな巻き物を持ち、右足は海の上に、左足は地の上に置き、(黙示録 10:2)

天から降りて来た御使いはとてつもなく巨大で、片足は海の上、もう片方は地の上、顔は太陽のようで、

頭上には虹。

素晴らしい。

獅子がほえるときのように大声で叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。(黙示録 10:3)

ここを読んで、第1章で描写されたイエス・キリストの姿を思い出しましたか。

御座の上には虹があり、主の顔は太陽のように輝き、足は炉で精錬されたしんちゅうのようでした。

このように酷似しているので、多くの神学者たちが、これはイエス・キリストだと信じています。

10章1節では「御使い」と書かれていますが、ここで用いられている「御使い」のギリシャ語は「**Aggelos**」で、意味は「メッセージを伝える者」

普通に思い浮かべる御使いでもあり得るし、メッセージを伝える者として牧師にも用いられているので牧師である可能性もあります。

**Aggelos** は単にメッセージを伝える人の意味ですが、太陽のような輝きを放ち、頭上には虹があり、火の柱のような足を持つ人なんて他にいないから、多くの人がこれはイエス・キリストだと信じています。

勿論、その可能性はありますよ。

恐らくこれはイエスでしょう。

でも私は、その考えに引っかかる所があるのです。

それは、順番が違うという点です。

10章は大患難の真っ只中で、まだ半分しか終わっておらず、鉢の裁きが残っているし、7番目のラッパもまだ鳴らされていません。

必然的に多くの人が、これはイエス・キリストだと信じていて恐らくそうなのでしょう。

しかし、その見方を信じる人たちは二通りに分かれます。

一つは、神秘的、霊的なものだとする人々。

主は地球上で実際に目撃されるのではなく、何か神秘的な形で来られる。

天にいる私たちからは見えるが、地上の人々には目で見える形ではないというように。

多数派は、10章は余談のような挿入だから順番がズレているとする人々。

なぜなら他に誰が太陽のような顔、獅子が吼えるような声をしていますか。

これらの表現は、旧約聖書では主を表すのに使われたので、旧約聖書でイエスはその姿を現わす時は「主の使い」と書かれています。

旧約聖書で「天の使い」が登場する時を「**Christophany**」と呼び、これはベツレヘムで赤ちゃんとして生まれる前のイエスを指します。

だからこの箇所が補足的な挿入、または霊的な意味を持っている可能性はあります。

でも私はどちらも違うと思います。

霊的でも挿入でもない。

黙示録の順序を乱す必要はないと思うのです。

私は、これは巨大な大天使だと思います。

ではどうして顔は太陽のようで、声は獅子が吼える時のようなのでしょうか。

ここが素晴らしいところです。

ご存知の通り、主の臨在の中にいる者は、主に似た者とされ主のようになります。

事実、第2コリントでパウロは言っています。

**私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。(Ⅱコリント 3:18)**

出エジプト記 34 章を覚えていますか。

モーセがシナイ山で主と共に 40 日を過ごした後、下りて来た時に何が起こりましたか。

彼の顔は明るく輝いていました。

だから私は、これは御使いで、それも主の臨在の中にいた重要な立場にある御使いだと思います。

ハル・リンジーは大天使ミカエルではないかと言っていますが、誰であれ、これは主の臨在の中において、そのため主のような特徴が与えられ、主のようになったという事でしょう。

私はその事にとっても励まされます。

なぜなら同じ事が、私にも皆さんにも起こり得るから。

私たちも主と共に歩むなら、主のような声を出し、主のような姿になり、主のように行動するようになって行きます。

毎日、毎日、少しずつ。

そしてヨハネが書いたように、いつか天に上げられて雲の中で主に会々と、私たちは主のようになるのです。

それは、栄光、素晴らしい日となるでしょう。

ですから、大患難の真っ只中で補足説明のような挿入は必要ないので、ここは、巨大な御使いが天から何かを伝えるためにやって来るとい事ではないかと私は思います。

それはそうと、20 章に入ると非常に驚くようなことが起こります。

サタンが一人の御使いに首根っこを捕まれて、底知れぬ穴に千年間放り込まれるのです。

サタンには確かに大きな力があり、9 章で書かれている悪霊たちのように想像を絶する恐ろしさでしょう。

しかし神の御使いたちは、敵の勢力を遥かに上回る力を持っています。

これはものすごい励ましです。

御使いが私のことを守ってくれているからです。

勿論、あなたのことにも守っています。

御使いはそれぞれの子供たちを守るように命じられている、とイエスは言いました。

ペテロが牢に投げ込まれた時のことを覚えていますか。

その時クリスチャンたちは集まって熱心に祈り続けていました。

やがて祈りの家のドアを叩く音が聞こえた時、彼ら祈りの戦士たちは「そんなワケがない」

**彼らは、「それは彼の御使いだ」と言っていた。(使徒 12:15)**

これにはとても驚きました。

誰も祈りを中断することがなく、御使いを見に行かなかったのです。

つまり、初期の頃の信者たちは、人にはそれぞれ守護天使がいるという事をはっきり認識していたよう

です。

だから彼らにとっては、何も不思議な事ではなかったのです。

びっくりです。

私なら急いで下に降りて行って、彼を見つめて家の中に招き、一緒にケーキを食べるでしょう。エンジェルフードケーキ。

いいですか。皆さんにも守護天使がいます。

御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたのではありませんか。(ヘブル 1:14)

それで、この巨大な御使いは主のような姿をして、暗く困難な時代に仕えているのです。

彼が叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。(黙示録 10:3)

七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天から声があって、「七つの雷が言ったことは封じて、書きしるすな」と言うのを聞いた。(黙示録 10:4)

御使いが叫んだ時、その叫びに応じて七つの雷が声を出しました。

それらが何と応えたのか、私たちには分かりません。

このことから分かるのは、天国に行くまでは、全てを完全に理解することはできないという事です。

確かに私たちには分からないことがあるのです。

だから力を抜いて！

それから、私の見た海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて、(黙示録 10:5)

永遠に生き、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方をさして、誓った。「もはや時が延ばされることはない。」(黙示録 10:6)

ところで、この御使いが「世々としえに生き給う方、ものを創造された方」に誓ったのならば、一体誰に誓っているのでしょうか。

全てを創造された方とは、イエス・キリスト。

万物は御子にあって造られたからです。(コロサイ 1:16)

よって、この御使いはイエス・キリストではない、というのが私の個人的意見です。

この御使いは、全てを創造した方に誓っているから。

さて、「もはや時が延ばされることはない。」(黙示録 10:6)とはどういう意味でしょう。

ギリシャ語では「CHRONOS」(クロノス)、chronology (年表)のような感じですね。

これは、時間或いは遅延と訳されますが、ここでは遅延の意味で使われています。

「もうこれ以上遅れることはない」

大患難の真っ只中で、「これ以上、時が延ばされることはない」とはどういうことですか。

毎週日曜日、私たちは「御国が来ますように」と祈っています。

で、天の御国は来ましたか。

主が直接手を下されるのを見たことがありますか。

確かに実際、私たちの中におられる主は手を下されます。

でも周りを見渡してみると色んなことが起こっていて、それらを見るたび私たちは「主よ。来て下さい。」

と言います。

「もうこれ以上、延ばさないで下さい。」

今は終末時代なので、「主よ。御国よ。来て下さい。」「主よ。どこにいますか。」

すると主は、「今、向かっている。しかし、わたしはわざと時を遅らせているのだ。」

その理由は、第2ペテロにこうあります。

主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

(Ⅱペテロ 3:9)

主は人々が福音を聞き、信じ、王国の一員になることを忍耐深く待っておられるのです。

感動します。

しかし、時が来ればこの御使いが登場して、「もう延ばされることはない」

主が動き出され、介入されて、すぐに王国が創設されます。

私たちは今、大患難の真っ只中を見えています。

「第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。」(黙示録 10:7)

「神の奥義が成就する」

奥義とは、私たちには理解できないこと、隠されていることです。

みなさん、もう一度伝えておきます。

これは牧師ヨハネから、様々な問題の中にある自分の集会へのメッセージです。

彼らの目の前で家族が殺され、人々が暴行され、残虐なことを日々目撃しているのです。

そこでヨハネはシンプルに伝えます。

「時が来れば、もう延ばされることはありません。そして、あなた方が抱いている全ての謎や疑問は解消されます。」

牧師ヨハネは彼の集会だけでなく、今夜、私たちにも語っています。

「主を信頼しなさい。」

「主が裏切ったことがありますか。主ががっかりさせたことがありますか。」

ある時点では、そう感じたことがあるかもしれません。

でも時を経ると、「主よ。あなたは全てご存知です。」と言えるでしょう。

ヨハネは、天国に於いては全てが完璧であるという事を伝えようとしているのです。

「7番目の御使いが7つ目のラッパを吹く時には、全てが明らかにされる！」

それから、前に私が天から聞いた声が、また私に話しかけて言った。

「さあ行って、海と地との上に立っている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。」

それで、私は御使いのところに行って、「その小さな巻き物を下さい」と言った。

すると、彼は言った。「それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のよ

うに甘い。」

**それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。(黙示録 10:8-10)**

この大きな御使いは太陽のように輝いて、福音を宣言しています。

「もう時が延ばされることはない!」「全てが明らかにされ、完全になり、全てが完璧に解決される!」  
そしてヨハネは、主が言った通り、巨大な御使いの手の中にある巻き物を取って食べました。

ところで興味深いことに、詩篇の著者が詩篇 119 篇や 19 篇で、「主の御言葉は蜂蜜よりも甘い」と書いています。

**あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。**

**蜜よりも私の口に甘いのです。(詩篇 119:103)**

木曜日と日曜日のバイブルスタディや毎日のデボーションで御言葉を読むと、それは甘い。

終末に起こることを知るのは素晴らしい。甘い。

私の罪が赦されて嬉しい。甘い。

私は天国に行くんだと聞くと嬉しくなる。甘い。

蜂蜜のように甘い。

でも、御言葉があなたの腹に苦みをもたらさなければ、それは正しく消化されておらず、吸収もされていないという事です。

正しく消化され、理解できているなら、御言葉は甘いけれども苦みももたらさずです。

御言葉の中に含まれ、それが意味していることは素晴らしいことです。

キリストは私たちのために死んで下さった。これは甘い。

私たちは赦された。甘い。

だけどそれだと、私たちの大切な人、例えば一緒に住んでいる家族、配偶者、子供たちは恐らく地獄へ行きます。

頭の中で理解しただけなら甘いのです。

しかし本当に理解したなら、御言葉を本当の意味で理解し、消化したなら甘いだけでなく、苦くて平常ではいられないほどに胃が痛くなるでしょう。

それで、自分が御言葉を本当に理解できているかを知るために、確認すべき点が二つあります。

第 1 に御言葉を本当に理解したなら、罪人に対して情熱的になります。

御言葉に従っていない人々、クリスチャンでありながら主の道を歩んでいない人々は、私には苦いのです。

彼らが義の道を歩まない限り、真に暗く大変な中を通ることになるのが分かっているからです。

子供たちを正しく育てないと、苦い経験をすることになるのが分かるから、私は辛くなるのです。

ノンクリスチャンの場合には、私の心は更に痛みます。

もしかしたらあなたの隣人かもしれませんが、人々が永遠の地獄に向かっているからです。

このことが分かると、苦みを感じるようになります。

**そのとき、彼らは私に言った。「あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならぬ。」(黙示録 10:11)**

皆さん、「しなければならぬ」のです。

「預言した方がよい」「伝えた方がよい」ではなく「伝えなければならぬ」他に選択肢はありません。

御言葉を食べ消化したなら、絶対に宣べ伝えるのです。

2番目。

罪人に対して情熱を抱き、“そして”もしくは“または”罪の意識に苛まれる。

それが御言葉の力です。

御言葉を正しく消化したなら、罪人に心が駆り立てられ、“そして”“または”自分自身の罪について良心の呵責を感じます。

バイブルスタディに来て、はじめは「これは甘い。」

ところが先生の話と自分の状況が合ってくると、「律法主義だ!」「それはずるい!」

気がつけば胃が痛み始め、そして先生に対して、教会に、夫に、妻に、誰かに対して苦々しい思いが湧いてくる。

腹が苦くなります。

それはあなたの罪が原因です。

御言葉は一旦消化されると、ある時点までは甘いのですが、本当の意味で理解し始めると「大変だ…」となります。

胃がシクシク痛む。

なぜなら自分の花婿キリスト・イエスに忠実でなかったから。

でも主はそこへ来て、再び甘くして下さいます。

「わたしはあなたを責めない」「あなたはわたしと共にいた。だからあなたを解放しよう」「あなたはわたしに耳を傾けた。だからあなたを自由にしよう」

これを聞いているひとり一人が、御言葉を真に消化し吸収するように祈ります。

自分で分かるでしょう。

胃が痛めば、あなたが進んでいる道は正しいのです。

霊的な妨げとなるものを、今日手放しなさい。

そうすれば、人生の祝福がもうそこまで来ています。

今、心がざわついていますか。それは素晴らしい!

バイブルスタディに参加して御言葉を読んで、何の変化も、心をかき乱されることもなく終わったとしたら、その時は心配するべきです。

真に理解していない証拠だから。

皆さんが本当に消化して、腹に苦みを感じるよう、主が理解する知恵を与えて下さるよう。

それによって、人々に対して情熱が燃やされるように。

罪の呵責を感じるように。

そして最後に、イエス・キリストによって、再び甘さが与えられ解放されるように。

あなたにも起こります。

父よ。今日の御言葉を深く心に留めて祈ります。

これが、ただの神学になることがないように。

私たちは御言葉を読み、学びながら、咀嚼して、エゼキエルのように熱く、ヨハネのように多くの人々や王や国々の前で伝えなければなりません。

民数記 5 章の御言葉の水を飲んだ女性のように、罪があるならその腹は苦くなります。

ですから主よ。私たちの中に不信仰の部分があるなら取り去って下さい。

イエス様。あなたは私たちを解放するために来られました。

私たちが、自分にはイエス様が必要だということに気づき、あなたに問題を委ねて、ここにいる家族がますます自由になりますように。

甘さが苦みとなりますが、また甘くなります。

父よ。この家族と共にいて下さい。

彼らを祝福して下さい。

私たちを憐れみ、赦して下さい。

私たちはあなたに罪を犯していますから。

主よ。あなたは今、私たちの中で働かれ、私たちを変えて下さっています。

引き続き変え続けて下さい。

主よ。私たちを諦めずにいて下さり感謝します。

主よ。この集まりが、御言葉を吸収するものとなりますように。

イエスの御名によって。アーメン

あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。

それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか。—あなたがたがそれに不適合であれば別です。—

しかし、私たちは不適合でないことを、あなたがたが悟るように私は望んでいます。

(Ⅱコリント 13:5 - 6)